

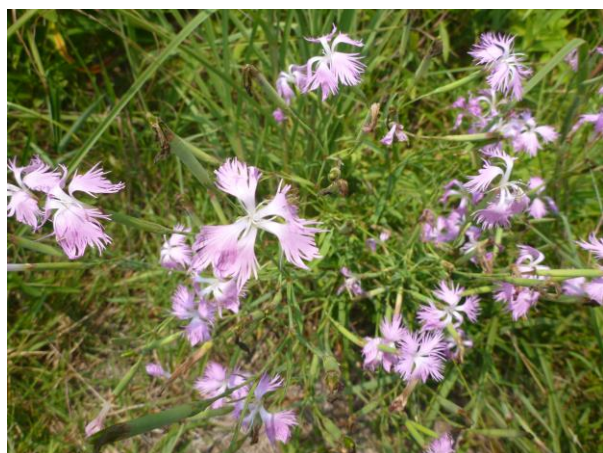
手柄山温室植物園だより
シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

1 1. カワラナデシコ（ナデシコ科ナデシコ属）

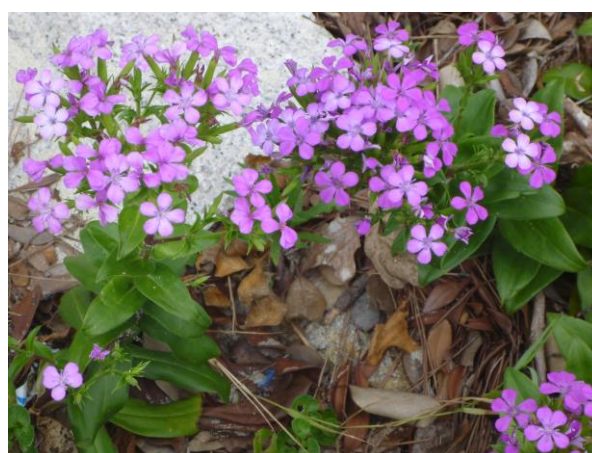
Dianthus superbis L. subsp. *longicalycinus* (Maxim.) Kitam.

2014年8月

よく日の当たる川原やため池の土手、丘陵地の草原などに生育する多年草です。茎は直立し上部で枝分かれして、高さ 50~100 cm になります。葉は対生で線形から披針形で粉白色を帯び、長さ 3~9 cm で基部は茎を抱きます。花期は 7~10 月で茎頂に数個、花弁は淡紅色で、縁は細かに深く切れ込みます。がくは筒状になり長さ 2~3 cm です。草原生植物で堤体などにおいて草刈などの維持管理が行き届いている環境でよく見られます。しかし、草刈がされず高茎種が繁茂する環境では徐々に消滅していきます。秋の七草のひとつで、古くから栽培されていました。淡紅色が一般的ですがまれに白色もみられます。江戸時代には花の変異を選別した、花弁が極端に長くなる一群を伊勢ナデシコと呼び、現在でも一部の愛好家により維持されています。また、外国産との交配も盛んで、各種園芸品種のもとになっています。その清楚な草姿からヤマトナデシコと呼ばれ、日本的な女性の代名詞にもなっています。分布は本州、四国、九州、朝鮮、中国です。浜辺には似た種類のハマナデシコ (*Dianthus japonicus* Thunb.) が見られます。砂浜や砂礫海岸、岩の隙間などで生育する多年草で、茎はそう生し、下部は木質化して斜上して高さ 15~50 cm になります。対生する葉は厚く光沢があり、根出葉と茎葉があります。花は 6~11 月に多数が密に集まって集散花序となります。花弁は紅紫色で上縁は歯牙となります。



カワラナデシコ



ハマナデシコ